

「さあ、みんなで、考えよう」

6月23日「沖縄慰霊の日」にちなんだクイズ

ほんつうしん がつついたちごう しょうかい おきなわせん がつ かげつ た ねん かげつ
本通信の4月1日号で紹介した沖縄戦。4月から3ヶ月が経ちました。1945年にはこの3ヶ月
あいだ おきなわ せんじょう おお し みる おきなわ なか に おお かた な げんざい
の間、沖縄は戦場となり、多くの市民が沖縄の中を逃げまどい、多くの方が亡くなりました。現在、
が つ にち おきなわ いれい ひ おきなわけん せいてい きねんび おきなわけん おきなわけんない しちようそん
6月23日は「沖縄慰霊の日」として沖縄県が制定している記念日で、沖縄県および沖縄県内の市町村
の機関の休日になっています。今回の通信では、このことにちなんだクイズを出題します。

おきなわしゅび ぐんさいこう し きかん さんぼうちよう じけつ おきなわせん そしきてきせんとう しゆうけつ ぐんしれいぶ
沖縄守備軍最高指揮官と参謀長が自決して沖縄戦の組織的戦闘が終結したとされる軍司令部が
げんざい おきなわけんいとまん し まぶ に へいわ きねんこうえん おきなわけんへいわ きねんしりようかん た
あった現在の沖縄県糸満市摩文仁には「平和祈念公園」があり、「沖縄県平和祈念資料館」が建
てられています。その広大な敷地には、沖縄戦で亡くなられた方の名前を刻んだ祈念碑が建てら
れていきます。その広大な敷地には、沖縄戦で亡くなられた方の名前を刻んだ祈念碑が建てら
れています。

- クイズ1 その祈念碑の名前は？
- クイズ2 この祈念碑はいつ、どのような趣旨で建てられたのでしょうか？
- クイズ3 祈念碑には、どのような方の名前と数が刻まれているのでしょうか？
- クイズ4 祈念碑には三重県出身の方も刻まれています。どれくらいの数でしょうか？

本年度第1回まちづくり協議会「人権・同和部会」の案内

つげちいき きょうぎかい じんけん どうわぶかい じんけん がつみつ か きん じ
柘植地域まちづくり協議会人権・同和部会をいがまち人権センターで7月3日(金)20時から
こんご けいかく ごうどう けんとう ふんい ないげんてい ないよう かいさい
今後の計画や合同フィールドワークについての検討を30分以内限定内容で開催します。

いがまち人権・同和问题地区別懇談会リーダー研修会の案内

～ 各回とも、いがまち公民館ホールで19:30から開催～

- 第1回 7月28日(火)「人権ちくこんに関する具体的なやり方について」
- 第2回 8月25日(火)講演会「高齢者問題に関する講演会」
- 第3回 9月29日(火)体験学習会「外国人の人権に関する学習会」

クイズ解説編

○クイズ1 「平和の礎」(へいわのいしじ)

○クイズ2 太平洋戦争・沖縄戦 終結50周年を記念して、1995年に沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外に伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などでなくなられたすべての人々の氏名を刻んだ祈念碑として建設されました。

○クイズ3 国籍問わず、沖縄戦で亡くなったすべての人々の名前が国別、都道府県別に刻まれています。2020年6月現在で平和の礎の沖縄県の方の碑には14万9547人が刻まれています。海外の方々の名前も刻まれており、一番多いアメリカは14,010人、次に多い大韓民国は382人でその両国の他の国も含めて、14,590人の海外の方の名前も刻まれています。平和の礎には、このように日本内外を問わずに2020年6月現在で24万1593人の方の名前が刻まれています。

○クイズ4 三重県の碑には、2,728人の名前が刻まれています。

沖縄は、住民を巻き込んだ地上戦の場となり、多くの貴い命とかけがえのない文化遺産を失いました。このような悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく継承していかうとしています。

「平和の礎」は、日本の方だけでなく、沖縄戦で亡くなった国内外の20万人余のすべての人々に追悼の意を表し、今日、平和を享受できる幸せと平和の尊さを再確認し、世界の恒久平和を祈念して建てられています。戦没者の氏名を刻んだ祈念碑を単に建設するのではなく、碑に芸術性を付与し、訪れる者が平和の尊さを感じ、安らぎと憩いをもってもらえる場としています。また、子どもたちにも平和について関心をもって平和学習に取り組んでももらえることも願って建てられています。

敷地内にある「平和の広場」からは、断崖絶壁から海岸線や波打ち際をみることができます。当時、逃げまどう人たちは、どのような思いでこの海岸線を見たのでしょうか。広場の中央には「平和の火」が灯されています。この「平和の火」は、1945年3月26日の沖縄戦最初の上陸地である座間味村阿嘉島において採取した火と被爆地広島市の「平和の灯」及び長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火を合火して1991年から灯しつづけた火を1995年6月23日の「慰霊の日」に平和の広場に移して灯し続けています。 [沖縄県平和祈念資料館の資料](#)や[ホームページのデータ](#)より要約・抜粋

本通信の4月1日号にも書きましたが、沖縄で、大切にされている言葉の「命どう宝」(=命こそ宝)、「いちやりばちよーでー」(漢字では行逢りば兄弟 =一度出会ったら、みんなきょうだい)を思い出します。沖縄戦の傷の上に沖縄の人々が築いてきた人間愛や優しさ、思いやりの心がこめられた素敵な言葉だと思えます。

文責・橋本浩信